琉球大学学術リポジトリ

# マンデル＝ フレミング・モデルと物価水準



| メタデータ | 言語: ja<br>出版者: 琉球大学国際地域創造学部<br>公開日: 2023-04-18<br>キーワード (Ja): 相互依存, マンデル＝<br>フレミング・モデル, 財政政策, 金融政策, 進化ゲーム,<br>ナッシュ均衡, 国際協調, インフレ期待, 物価水準<br>キーワード (En):<br>作成者: 徳島, 武<br>メールアドレス:<br>所属: |
| --- | --- |
| URL | https://doi.org/10.24564/0002019733 |

# マンデル＝フレミング・モデルと物価水準

徳島 武

**抄録**

マンデル＝フレミング・モデルにおいて、一定と設定すべき物価水準は、所与の貨幣賃金率の下での、完全雇用を実現する物価水準である。

キーワード：相互依存、マンデル＝フレミング・モデル、財政政策、金融政策、進化ゲーム、ナッシュ均衡、国際協調、インフレ期待、物価水準

## 1. はじめに

徳島（2013）、(2014)、(2015)、(2016)、(2017）の一連の論文により、国際マクロ経済学の代表的モデルであるマンデル＝フレミング・モデルを用いて、変動相場制下の財政金融政策の相互依存についての分析が展開された。そこでは一貫して、物価水準は一定と仮定された。本論文では、どの物価水準を一定とすべきかについて分析する。2. で分析を展開し、3. でまとめる。

## 2. 分析

財政金融政策の目的は、完全雇用、完全雇用実質国民所得の実現である。よって、これらと矛盾しないように、物価水準を設定しなければならない。労働市場の均衡において、実質賃金率と労働の限界生産力が一致する。所与の貨幣賃金率を $\overline{W}$、物価水準を $P$、労働の限界生産力を $MP_L$、雇用された労働量を $L$、実質国民所得を $Y$ とし、右下の添字の $f$ で完全雇用を示すと、

$$\frac{\overline{W}}{P_f} = MP_L(L(Y_f)) \quad ; MP_L' < 0 < L'$$

が成立する[1]。両辺は一定になる。設定する物価水準を $P_s$ とすると、

$P_S = P_f$ のとき $W = \overline{W}$　∴成立
$P_S < P_f$ のとき $W < \overline{W}$　∴不成立
$P_f < P_S$ のとき $\overline{W} < W$　∴不成立

となるので、設定すべき物価水準は、所与の貨幣賃金率の下での、完全雇用を実現する物価水準となる[2]。

## 3. おわりに

マンデル＝フレミング・モデルの分析において、物価水準を一定とするのが、一般的な仮定であるが、どの物価水準に設定するかは、曖昧にされてきた。本論文において、その曖昧さが解消されたと言えるだろう。

### 注

1) 完全雇用実質国民所得の実現と、完全雇用の実現は、同値である。
2) 総供給曲線における完全雇用実質国民所得に対する、最低の物価水準になる。

### 参考文献

伊藤隆敏（2013）『インフレ目標政策』、日本経済新聞社
――――・林　伴子（2006）『インフレ目標と金融政策』、東洋経済新報社
岩田規久男（2011）『デフレと超円高』、講談社
岩本武和 (2012) 『国際経済学　国際金融編』、ミネルヴァ書房

大浦宏邦 (2008)『社会科学者のための進化ゲーム理論』、勁草書房
岡田　章 (2008)『ゲーム理論・入門』、有斐閣
――――(2011)『ゲーム理論・新版』、有斐閣
小川英治・川崎健太郎 (2007)『MBA のための国際金融』、有斐閣
翁　邦雄（2013）『金融政策のフロンティア』、日本評論社
奥村隆平 (1989)『改訂版　変動為替相場制の理論』、名古屋大学出版会
小野善康 (1999)『国際マクロ経済学』、岩波書店
河合正弘 (1994)『国際金融論』、東京大学出版会
齋藤　誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久 (2010)『マクロ経済学』、有斐閣
酒井良清・榊原健一・鹿野嘉昭（2011）『金融政策　第 3 版』、有斐閣
――――・鹿野嘉昭（2011）『金融システム　第 4 版』、有斐閣
清水　誠 (2015)『負の利子率政策』、日本評論社
宿輪純一 (2010)『通貨経済学入門』、日本経済出版社
須田美矢子編 (1992)『対外不均衡の経済学』、日本経済新聞社
高木信二 (1992)『入門 | 国際金融』、日本評論社
武隈慎一 (2004)『マクロ経済学の基礎理論』、新世社
竹中平蔵・小川一夫 (1987)『対外不均衡のマクロ分析』、東洋経済新報社
辻　正次・田岡文夫編 (2010)『現代国際マクロ経済学 [ 改訂版 ]』、多賀出版
徳島　武（2013）「変動相場制下の財政金融政策の相互依存：マンデル＝フレミング・モデル」、『琉球大学　經濟研究』第 86 号、17-23
――――（2014）「変動相場制下の財政金融政策のゲーム構造：マンデル＝フレミング・モデル」、『琉球大学　經濟研究』第 88 号、15-21
――――（2015）「変動相場制下の財政金融政策の進化ゲーム：マンデル＝フレミング・モデル」、『琉球大学　經濟研究』第 90 号、23-29
――――（2016）「変動相場制下の財政金融政策の相互依存：マンデル＝フレミング・モデルと国際協調モデル」、『琉球大学　經濟研究』第 92 号、1-8
――――（2017）「変動相場制下の財政金融政策の相互依存：総括」、『琉球大学　經濟研究』第 94 号、73-77
中西訓嗣・広瀬憲三・井川一宏編 (2003)『国際経済理論』、有斐閣
萩原恵子 (2008)「経常収支不均衡の調整過程 : 近年の理論的分析の展望」、『金融研究』第 27 巻、第 4 号、87-124
浜田宏一 (1982)『国際金融の政治経済学』、創文社
――――(1996)『国際金融』、岩波書店
林　伴子 (2003)『マクロ経済政策の「技術」』、日本評論社
平島真一編 (2004)『現代外国為替論』、有斐閣
深尾光洋 (2010)『国際金融論講義』、日本経済新聞出版社
藤田誠一・岩壺健太郎編 (2010)『グローバル・インバランスの経済分析』、有斐閣
――――・小川英治編 (2008)『国際金融理論』、有斐閣

藤原秀夫・小川英治・地主敏樹 (2001)『国際金融』、有斐閣
二神孝一・堀　敬一 (2009)『マクロ経済学』、有斐閣
松林洋一 (2010)『対外不均衡とマクロ経済 [ 理論と実証 ]』、東洋経済新報社
宮尾龍蔵 (2016)『非伝統的金融政策』、有斐閣
矢野恵二 (1989)『開放マクロ経済学の展開』、白桃書房
Dornbush,R.(1980)*Open Economy Macroeconomics*,New York:Basic Books
Gärtner,M.(1993)*Macroeconomics Under Flexible Exchange Rates*,Harvester Wheatsheaf
Isard,P.(1995)*Exchange Rate Economics*,Cambridge University Press
Krugman,P.R. and M.Obstfeld(2000)*International Economics Theory and Policy fifth ed.*,Addison-Wesley
Mankiw,N.G.(1994)*Macroeconomics second ed.*,Worth Publishers
Mark,N.C.(2001)*International Macroeconomics and Finance*,Blackwell Publishers
Mundell,R.A.(1968)*International Economics*,The Macmillan Company
Obstfeld,M. and K.Rogoff(1996)*Foundations of International Macroeconomics*,MIT Press
Olsson,O.(2012)*Essentials of Advanced Macroeconomic Theory*,Routledge
Pitchford,J.(1995)*The Current Account and Foreign Debt*,Routledge
Turnovsky,S.J.(1997)*International Macroeconomic Dynamics*,MIT Press
Van der Ploeg,F.(ed.)(1994)*The Handbook of International Macroeconomics*,Basil Blackwell